なかしべつ景観まちづくり
フォーラム

報　告　書

令和２年２月

中　標　津　町

なかしべつ景観まちづくりフォーラム

□日　時：令和２年２月２２日（土）13:00～15:30

□場　所：中標津町交流センター　大集会室

□参加者：３０名

プログラム

１．開　会

２．開会挨拶　中標津町長　西村　穣

３　講演会「景観はまちのアイデンティティ」
講師：東京都市大学　坂井　文　教授

４．中標津農業高校の活動報告

５．グループでの活動報告と未来への話し合い「未来を創る景観まちづくり」

６．閉　会

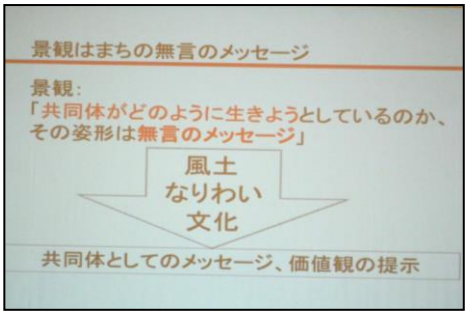
■開会挨拶　中標津町長　西村　穣

■講演会「景観はまちのアイデンティティ」

講師：東京都市大学　教授　坂井　文　氏

【中標津町との関係】
・２０１５年に中標津町景観計画を策定するということで、策定委員長を頼まれたので引き受けた。
・それから何度かフォーラムの際に呼んでもらって講演している。

【今回のテーマ】
・元東大教授で建築家の内藤廣さんの言葉「建築や街並みが形作る景観的なメッセージは、今後の街の生命線を司ることになるだろう。その共同体がどのように生きようとしているのか、その姿形は無言のメッセージに他ならない。」から、「景観は無言のメッセージ」ということについて話したい。

【景観について】


・町の地形、風土、生業によって開拓された文化がわかる。それが共同体としてのメッセージということ。
・第１次産業、第２次産業、第３次産業と作ってきたものを見ながら生活している生業の蓄積を景観と呼ぶ。
・北海道は本州などに比べて、第１次産業と第３次産業の距離が近い。
・本州では常緑種が多いが、北海道には落葉樹が多いので全体的に明るく感じる、特異な風景を作っている。
・住んでいる場所や通勤・通学のために通っている場所の景色は見慣れているので、そこが変わるととても気になる。
・帯広市で関わった市民の方が「毎日通いながら眺めていた十勝の山並みが、ある日突然、赤い大きな看板の出現によって壊れていくのを見て、景観について考える必要があると思って活動に参加しました。」と言っていたように、住民が景観について「このままだと変わってしまう」と危機感を覚えるというのが、景観に関わるきっかけになる人が多い。
・例として、初めに山を切り開いて畑を作り、畑をやめて牧草地帯になり、最終的にそれもやめて森に戻るという一連の流れをモンタージュにした。
・モンタージュはどの地点が駄目だということではなく、生業によって景色や景観がこんなにも変わるというもの。
・日々の生活で景観の変化を実感することはあまりないかもしれない。人間は忘れる動物なので、景観が変わってもそれに慣れてしまって前の姿を忘れる。

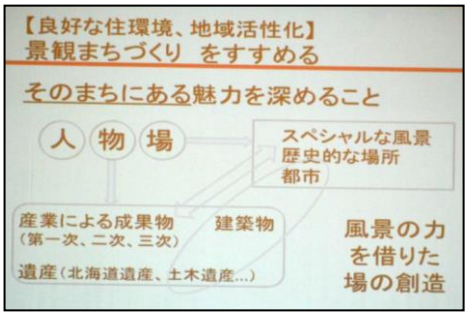
【共同体のメッセージである景観を誰に伝えていくのか】
・未来にずっと繋げていくために、自分の子供たちや孫に対して伝えていく。
・今は中標津のことを知らないが、未来に中標津を知って好きになる、もしくは住みたい、ここで何かをしたいというファン層、未知の客を繋ぎとめるのが地域発展には大事。
・日々の生活をしている姿を地域の価値として高めて、外から来た人に中標津町がこんな町だと示すための特性として活かす。
・共同体としてのメッセージなので、オール市民、一人一人の住民がやっていく。住民がオール役者となって、共同体の仕組みの一部となることが大切。

【イギリスのロンドンでの事例】
・ロンドンが不景気な時、公園が非常に荒れていて、安心できない場所になっていた。

・自分の家の中を居心地良くすることはみんなやるが、外側までは気が回らないのを時々見る。家の外も町の一部であるので、そこを居心地良くしないと、町全体が居心地良くならない。
・ロンドンのナショナル・ギャラリー（美術館）では、全面道路が元々３～４車線あって２階建てバスが大量に通っていたが、歩行者専用道路になった。
・反対側にはトラファルガー広場があるが、２つの観光資源の間に車が通っていたので、観光客の安全と、市民の交通の安全の面から道路を一本ずらして歩行者専用道路となった。
・少子高齢化が進む中で、早く歩けなくなったり杖をつく方が増えるので、動きやすく誰にもわかりやすい町、ユニバーサルデザインやシンプルデザインなどの取り組みによって自らの住む場所の価値を高めるというやり方も大事。
・自分の住む都市を誇りに思うシビックプライドも非常に大事。
・少子高齢化に向けて、選ばれる町にするため、住民は町に誇りをもって、見どころを大事にして、次の世代と外の人に提示できることが大事。

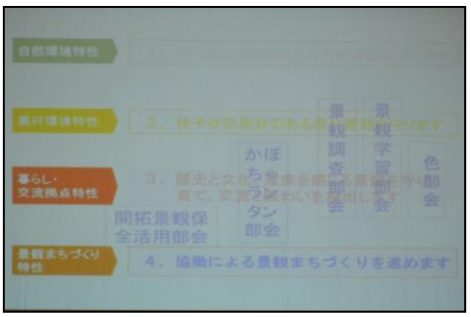
【広域の取り組み】
・十勝のほうでは北海道ガーデン街路というのをやっている。
・市町村の域を超えて一緒に事業をすれば大きな価値を出せるので、道東エリアでブランディングを高める。
・中標津には空港があって、交通の要所になっているので、最初に道東に降りるという人がたくさんいる。そこから色んなところに散って、戻ってくるなど、ルートが考えやすい。
・リーダーシップをとって、うちのエリアでは酪農中心で対応というような、意外なブランディングで協力するのが大事。

【景観まちづくりについて】
・そのまちにある魅力を深めること、この場合は「人」、「物」、「場」のこと。
・「物」は牛乳などの産業による成果物や建築物、遺産のようなもの。
・「場」はここがどのようにしてできたのかという歴史やスペシャルな景色など。
・風景の力を借りた場の創造が必要。



【取り組みの例】
・北海道で関わった取り組みでは、ニセコでサインの統一をしたり、千歳空港から降りた後の沿道景観を形成しましょうというような、色々なところから来た人に対してわかりやすく町を整えるというようなことをした。
・ほかの事例として、京都では軒下がつながっているのが景観の要素としてあるが、そこに空き家が出て途切れてしまう。そこで、駐車場になるが、軒がつながっているように見える門を作った。
・このように、町の景観が統一されているように整えるという、景観の中でも色々な取り組みがある。
・イベントを仕掛けるということで、中標津でもマルシェをやるとか、東京でマルシェをして、中標津にもこんなに美味しいものがあるから来てくれと、状況を提供するというのもある。
・７００以上の自治体があるので、それぞれをお手本にして、時には見に行ったり聞きに行ったりするのが大切。

【中標津町景観計画について】



・景観計画を作るときに、まず中標津に何があるか、自然、農村、暮らし、交流というような場所や物についてそれぞれ分析をした。
・分析したものをそれぞれ「自然環境特性」、「農村環境特性」、「暮らし・交流拠点特性」、「協働の景観まちづくり特性」と４つの柱に分類し、それぞれに基本理念と方針を定めた。
・「みんなの景観なかしべつプロジェクト」が協働による景観まちづくりを精力的に進めていて、５つの部会により景観計画の柱に関わってくる重要な活動をしている。
・それぞれの部会で活動しているが、次のステップでは部会同士が連携して、掛け算しながら進めてほしい。
・中標津町では、「人」に着目した景観まちづくりが着実に進められている。
・他の自治体では計画の後半部分で息切れしてしまい、協働の部分について具体的な活動がわからないまま策定されることが多いですが、中標津町の景観計画ではこの部分について充実している。

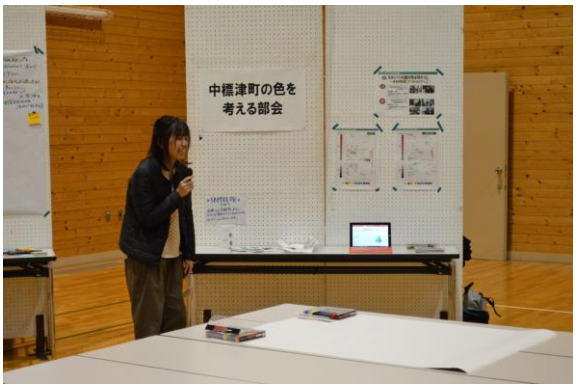
【エリアマネジメント】

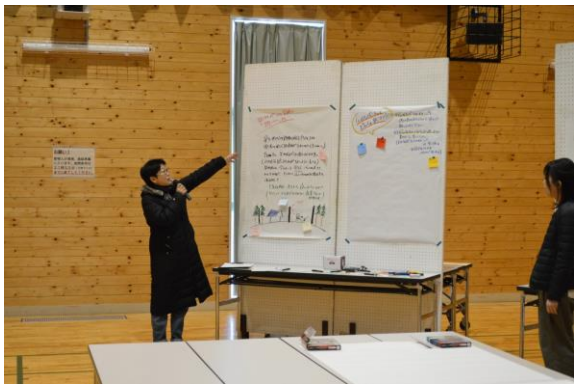
・これからは現状をどうやって維持していくか、運営していくかということが重要になっていく。この国だけでなく、グローバルな考え方が必要。
・自分の住む町の安心安全や環境、コミュニティは自分でやって、地域を自分たちで育てていく。エリアマネジメントでは「つくるだけでなく、育てること」と言っている。
・例えば計根別地区だと計根別の人が中心となって、俺たちの町は俺たちがこういう取り組みでやっていくと、住民や事業者、地権者が主体的にエリアをマネジメントしていく。
・美しい町を作れば安全安心か、先に安全安心があれば町は美しく感じる。エリアマネジメントの中に景観があるので、景観という狭い範囲で考えるのではなく、色んなところに広がっていくということを考える。
・共同体として景観をワードに次世代や外の人を引き付けるために、自分たちの町を自分たちでマネジメントしていくということ。

■中標津農業高校の活動報告

■「みんなの景観なかしべつプロジェクト」設立報告

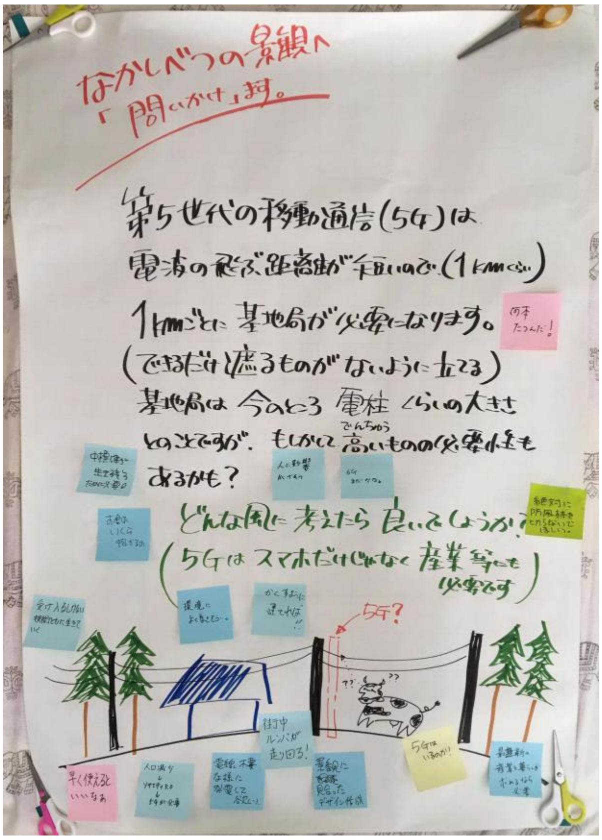
■グループでの活動報告と未来への話し合い「未来を創る景観まちづくり」

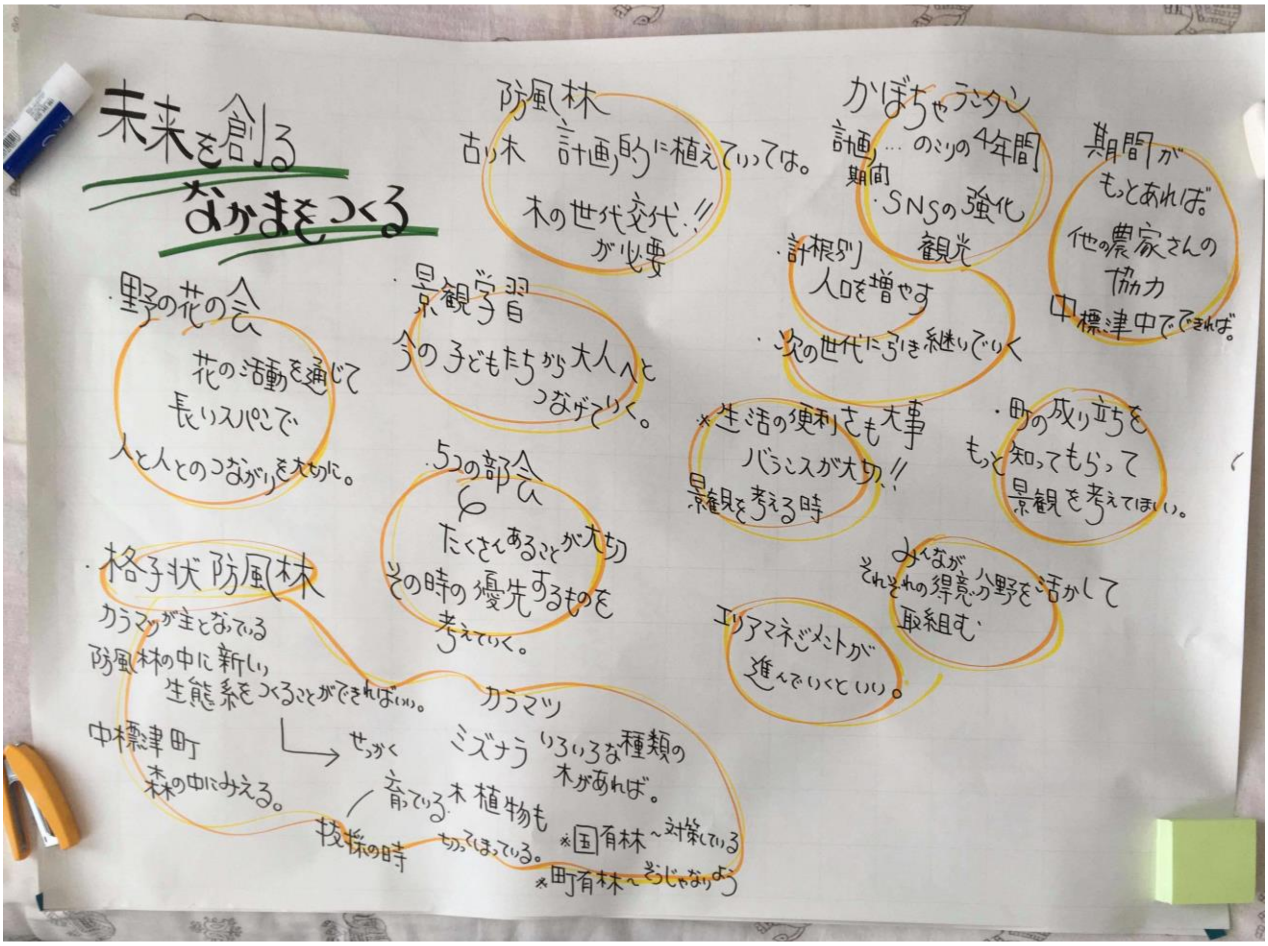




■グループでの活動報告と未来への話し合い「未来を創る景観まちづくり」

なかしべつってどんな色？？
①なかしべつのイメージに近い色のおりがみを選んで貼ってみて下さい。
②どんなイメージからそう思ったか書けたら、書いて下さい。
(たとえば、モノのイメージ 牛、空、緑 形容詞でもOK さわやか、もしイメージ)
武佐岳色
格子状ブルー
春のたんぽぽ
夕日
星空


なかしべつの景観へ「問いかけ」ます。
第5世代の移動通信(5G)は
電波の飛ぶ距離が短いので(1kmぐらい)
1kmごとに基地局が必要になります。
(できるだけ遮るものがないように立てる)
基地局は今のところ電柱くらいの大きさとのことですが、もしかして高い(でんちゅう)ものの必要性もあるかも？
どんな風に考えたら良いでしょうか？
(5Gはスマホだけじゃなく産業等にも必要です)
5G?


未来を創るなかまをつくる
防風林
古い木 計画的に植えていっては。
木の世代交代！！が必要
かぼちゃランタン
計画…のこりの4年間 期間
・SNSの強化 観光
・計根別 人口を増やす
・次の世代に引き継いでいく
期間がもっとあれば。
他の農家さんの協力
中標津中でできれば。
・野の花の会
花の活動を通じて長いスパンで
人と人とのつながりを大切に。
景観学習
今の子どもたちから大人へとつなげていく。
・5つの部会
たくさんあることが大切
その時の優先するものを考えていく。
※生活の便利さも大事
バランスが大切！！
景観を考える時
・町の成り立ちをもっと知ってもらって景観を考えてほしい。
みんなが それぞれの得意分野を活かして取組む
エリアマネジメントが進んでいくといい。
・格子状防風林
カラマツが主となってる
防風林の中に新しい生態系をつくることができればいい。
中標津町
森の中にみえる。
せっかく
カラマツ
ミズナラ いろいろな種類の木があれば。
育ってる木 植物も
伐採の時 切ってしまってる。
※国有林～対策してる
※町有林～そうじゃないよう